

報告にもコスト意識をもとう

Y君は、ある件で、時間をかけ、カラーも使って、きれいな報告書を作成しました。さっそく課長に提出したところ、

課長「馬鹿者が！ こんな報告書を作って… 高くつくじゃないか！」

と叱られました。

Y君「せっかく苦勞して作った報告書なのに。なぜ叱られるのか？ 課長からは、報告書はきちんと書くようにといつもいわれているのに …… 今日のご機嫌が悪いのだろうか？」

1. コスト意識(原価意識)は、すべての企業人に必要です

上記の例で、Y君はなぜ叱られたのでしょうか？

Y君の上司は、「コスト意識」について注意を与えている優れた課長なのです。企業人には、あらゆる場面でコスト意識が求められています。

第一に、間違った報告、遅れた連絡、ニッチもサッチもいかなくなってからの相談、などで仕事をやり直したり、手直しをしたりすれば、当然コストが高くなります。さらに、お客様の信頼を失っては元も子もありません。

第二に、やたらにきれい、やけに詳しい報告書がみられますが、報告書の作成に時間がかかり過ぎてはいないでしょうか。

2. 詳しすぎる報告はやめよう

愛媛県のある酒造会社の社長から、社長通達文の写しをいただきました。そのなかで、詳しすぎる報告をやめるように指示しておられました。

お酒のメーカーでは、税務関係の報告は詳しいものが求められます。このことが影響しているせいか、「簡単なもので済む社内の報告に、詳しすぎるものがある」という社長の指摘です。社員に、報告のコストを忘れないように注意されているのです。

報告にもコスト意識をもとう

3. 美しすぎる報告もやめよう

大阪の、あるコンピュータソフト会社のマネージャーの話です。

「部下がパソコンを駆使して、カラフルな報告書をよく出してくるので、『報告の中身と表現のバランスを考えるように』と注意を与えています」

これは「メモで済むようなことまで、カラフルな報告書を作るな」という指導です。中身に比べて、外形が美しすぎるのです。

報告の表現を工夫することはもちろん必要なことですが、手間隙(てまひま=手数・時間)をかけすぎたのではコスト高になります。

コスト意識のある報連相には、「何のために」という「目的意識」との関係が大切です。目的によっては詳しい報告書も美しい報告書も必要です。どの程度の報告書にするのかは、目的に照らし合わせて判断すればよいのです。

4. コスト意識が高い人には、問題が見えます

さらにいえば、コスト意識の高い人には、「おや？これは無駄では？」と、問題が見えるから報告するのです。コスト意識の低い人は、例えば、水道の水が漏れていても、それを問題とは感じません。ですから、その状況についての報告はないのです。

報連相は“やり方”だけのことではありません。そもそも報連相があるのか、ないのかという、報連相の出発点が肝心です。問題が見えなければ、その人にとっては、報告が必要なその問題は存在しないのです。「そういう人の存在自体が職場の重要問題である」ということにもなりかねません。

コスト意識が高い自己なのか、それとも低い自己なのか。自己を振り返ってみましょう。